

DAS KAPITAL

次回は 第76回「資本論を読む会」



☆6月30日（月曜日）午後6時30分
—Zoomで開催

第4章「循環過程の三つの形」 [岩波文庫
(四)p170-]。

5月の「資本論を読む会」は26日開催。参加者は7人といつもよりは少なめでした。今回は「第3章 商品資本の循環」を速攻でレポート報告（前回に読み合わせを終えていますので）。ここまで読み進んできて、おぼろげながら「マルクス・資本論第二巻のイメージが見えてきた!」と言ったら大げさですかね。でも第1章の貨幣資本（G—）、第2章生産資本（P…）そして第3章商品資本（W'—）と来て、「この書（第二巻）から流過程に入る」と言っていた意味が分かりました（もっとも、内容はまだ十分に理解できていませんが）。資本論第一巻が「第1篇第1章—商品」から入って悩まされた経験があるように、「これは避けられない試練だったのだ!」と大げさに納得。

第3章の最終フレーズは「W'…W' はケネーの経済表の基礎をなすもので、彼がG…G'（重商主義が孤立化して固守した形態）

に対してこの形態を選び、P…Pを選ばなかったということは、偉大で正確な手腕を示すものである。」(p148)で締めくくっています。

G—G'、P—P'、W—W' で悩まされたのは、マルクス経済学の再生産表式「資本の再生産・流通が順調に進行するための条件が何かを示すことを目的として、再生産のプロセスを表した数式」(Wiki)を勉強するためのベースなのでした。これはズーッと先の第20章あたりで本格的にやることになるそうです。ともあれ、分からないなりに進めてきましたが、今後もおいおい読み進めるにつれて理解が深まってくることを期待したいですね。のんびりと構えましょう。

懇親会では「第1巻の最初から読み始めたい」というニーズに応えられる方法は…等と、遅くまで盛り上がりました。次回レポーターはkatoちゃんです。よろしくお願いいたします。

☆「資本論を読む会」の最初からの資料は下記ホームページでご覧になれます。

◎ <http://socialistho.cafe.coocan.jp/>「資本論を読む会」オープン・コーナーにあります。

レポーターから—Suigi

第3章 商品資本の循環

商品資本の循環の一般定式は次の如くである。

$W' — G' — W \cdots P \cdots W'$

剰余価値を含む新たな商品（生産物）、等価交換に基づく流通、増殖された貨幣資本、商品（生産物）、流通の中断と価値の増殖過程、生産過程（生産資本）、流通の中断と価値の増殖過程、剰余価値を含む新たな商品（生産物）

・—資本にとってG—Wであるものは他の資本にとってのW' —G' を含んでいる。
・商品資本の循環は…商品形態で増加された資本価値をもって開始されるのであり、…剰余価値の循環を含んでいる。W' 剰余価値を含むあらたな生産物、生産過程で生み出された商品資本により循環が開始され、W' をもって終わる。W' は、その機能によって貨幣に、価値増殖された資本G' に転化されねばならない。そのため再生産を含んでいる。
・第3循環では他人の諸商品たるW(A、Pm)を前提とせざるをえない。終点にあるW' は前のG'、Pとは異なって流通の継続過程にあり、生産諸要素をなす諸商品に交換されなければならない。
しかも外部の商品市場からG—WによってWを受取る第2の極は循環の終点ではなく、流過程の終極である。
すなわち生産資本に転化され、その機能の結果としてW' が再び、再度循環の終点を形成する。
言い換えれば終点のW' は直接に他人の貨幣、商品を前提とはしない。W' は生産過程の直接の結果として、生産過程を再び準備し、商品を循環の再開にあたって前提とする。